

## 予 算 要 求 資 料

令和6年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：林業費 目：林業振興費

### 事業名 教員研究費（森林文化アカデミー）

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

林政部 森林文化アカデミー 総務課 電話番号：0575-35-2525

E-mail：c21907@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 5,385 千円 （前年度予算額：5,869 千円）

#### <財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	5,869	0	0	0	0	0	0	0	5,869
要求額	5,385	0	0	0	0	0	0	0	5,385
決定額									

## 2 要 求 内 容

### (1) 要求の趣旨（現状と課題）

森林文化アカデミーは、実践的な専修教育・学習機関であるため、高度な教育研究を積極的に実施するとともに、特に森と木のクリエイター科教育は地域の森林・林業が抱える諸問題を解決する指導者育成を目的としている。そのため、教員はより最新で実践的知識・技能を絶えず取得する必要がある、また学生の教育フィールドの開拓が必要とされる。それゆえ教員自身も研究を通じての自己研さんが必要である。

### (2) 事業内容

森林文化、里山、人工林、山村活性化、木造建築、ものづくり分野において、県内外の最新あるいは先進事例を調査研究することにより、その成果を学生や地域に還元し、学校全体の資質向上を図る。

### (3) 県負担・補助率の考え方

森林文化アカデミー運営に関わることのため、県において全額負担することが妥当

### (4) 類似事業の有無

無

## 3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報酬	216	調査研究協力補助等
共済費	1	労災保険料
旅費	1,462	調査旅費
需用費	1,731	消耗品費 1,516 (研究用資材)、修繕料215 (機械器具修繕)
通信運搬費	321	機械・研究機器等修繕
使用料	276	高速道路利用料等
備品購入費	1,072	調査研究機器等
負担金	306	各種学会・研究会参加負担金
合計	5,385	

### 決定額の考え方

--

## 4 参考事項

### (1) 後年度の財政負担

教員資質は常に向上させる必要があるため今後も継続する。

# 事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

## 1 事業の目標と成果

### （事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

県の林業技術者育成の中核機関として、優秀な林業従事者を林業界へ供給するため、あるいは地域の森林・林業が抱える諸問題を解決するため、より最新で実践的知識・技能を絶えず取得する必要がある教員の資質を向上・維持を図る。

### （目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R2年度 実績	R3年度 目標	R4年度 目標	終期目標	
					(R)	達成率
①						
②						

### ○指標を設定することができない場合の理由

教育指導レベル等の指標化は困難

### （これまでの取組内容と成果）

令和2年度	<p>研究成果は、毎年度のカリキュラム編成に反映され、新たな知見を加えた授業が行われている。</p> <p>学生教育にとどまらず、地域社会や伝統技術の継承等、社会的な成果も上がっている。</p> <p>例：空き家対策と古民家再生既存建物の改修・利活用をするために、調査・設計の際に考慮すべき要点に配慮し、実際の現場で実測調査、改修プラン設計を行った。</p>
令和3年度	<p>研究成果は、毎年度のカリキュラム編成に反映され、新たな知見を加えた授業が行われており、学生教育にとどまらず、地域社会や伝統技術の継承等、社会的な成果も上がっている。</p> <p>例：子育て支援施設内の木育広場の設置のため、地域材を活用し自然のままの形を活かした玩具を製作し、住民と里山の交流を図る活動を行った。</p> <p>指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %</p>
令和4年度	<p>研究成果は、毎年度のカリキュラム編成に反映され、新たな知見を加えた授業が行われており、学生教育にとどまらず、地域社会や伝統技術の継承等、社会的な成果も上がっている。</p> <p>例：シデコブシの自生地での萌芽更新の研究を行い、同樹種の保全活動に貢献した。</p> <p>指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %</p>

## 2 事業の評価と課題

### (事業の評価)

<b>・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)</b> 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価) 3	森林文化アカデミーは、県の林業技術者育成の中核機関。有能な若手林業従事者等を育成するには、豊富で高度な知識を有する教員が必要。
<b>・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)</b> 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価) 2	森林・林業・山村づくり・木造建築・ものづくり等に関する情報・知識が蓄積され、公共団体からも講師依頼、各種委員会委員の委嘱を受けている。
<b>・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)</b> 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 1	・業界から求められる知識・技術を持った人材を育成するために、業界のニーズを常に把握し、その教育を提供できるよう委員会で協議、研究している。 ・国等他期間との共同研究を行うことで、経費の節減にも努めている。

### (今後の課題)

<b>・事業が直面する課題や改善が必要な事項</b> 林業機械の進化、高度化が進む中、教育側も常に進化、高度化する必要がある。
--

### (次年度の方向性)

<b>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか</b> 森林技術者の養成機関として、優秀な林業技術者育成、森林文化、里山、人工林、山村活性化、木造建築、ものづくり分野に優れた人材を供給するため、より一層の教育水準の向上を図る。
--

## 県単独補助金事業評価調書

 新規要求事業

 継続要求事業

(事業内容)

補助事業名	
補助事業者 (団体)	(理由)
補助事業の概要	(目的) (内容)
補助率・補助単価等	定額・定率・その他 (例: 人件費相当額) (内容) (理由)
補助効果	
終期の設定	終期〇〇年度 (理由)

(事業目標)

・終期までに何をどのような状態にしたいのか

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (R)	R2年度 実績	R3年度 目標	R4年度 目標	終期目標 (R)	達成率
①						
②						

補助金交付実績 (単位: 千円)	H30年度	R元年度	R2年度

(これまでの取組内容と成果)

令和2年度	<ul style="list-style-type: none"><li>取組内容と成果を記載してください。</li></ul>
	指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %
令和3年度	令和5年度当初予算にて追加
	指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %
令和4年度	令和6年度当初予算にて追加
	指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"><li>事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</li></ul>	
(評価)	
<ul style="list-style-type: none"><li>事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり(単年度目標100%達成かつ他に特筆できる要素あり) 2：期待どおりの成果あり(単年度目標100%達成) 1：期待どおりの成果が得られていない(単年度目標50~100%) 0：ほとんど成果が得られていない(単年度目標50%未満)</li></ul>	
(評価)	
<ul style="list-style-type: none"><li>事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</li></ul>	
(評価)	

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"><li>事業が直面する課題や改善が必要な事項</li></ul>
--

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"><li>継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか</li></ul>
---